

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201056		
法人名	社会福祉法人一燈園		
事業所名	グループホーム新別府一燈園 3階なごみ		
所在地	大分県別府市大字鶴見字新別府3051番地3		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症である利用者がその人らしい生活を過ごして頂けるような支援を行っている。・地域交流を積極的に行っており、月に一度の挨拶運動、行事、運動会、など地域行事参加や、当施設主催の夏祭りや秋刀魚と新米の会、合同防災訓練など、地域の皆様との交流を通して、地域住民としての役割を支援している。・手作りの家庭の味を大切に、また季節感のある行事食や、その方にあった食事の提供を行っている。・ご家族のご意見、ご要望に耳を傾け、ご家族と共に利用者を支えている。・学習療法を継続して行っている利用者の方への支援を週4日程度行っており、前頭葉の活性化と、コミュニケーション能力、エピソード記憶を継続されている。利用者のADLIに合わせた生活リハビリに配慮し日常生活の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム新別府一燈園 2階に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえたサービスを心がけている。スタッフルームにて掲示して、会議でも理念を胸に発言するよう実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度のあいさつ運動、市内一斉清掃には利用者と共に参加するなど、地域の行事に積極的に参加を行っている。また、園主催の交流の場を設け(夏祭り、秋刀魚の会)交流を行っている。地域合同の防災訓練を行い、地域の住民として生活出来る様、援助している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のあいさつ運動に参加し、月1回の朝登校時に通学路に立ち地域の方々と交流を図っている。地域合同の防災訓練や、秋刀魚と新米の会、アマルセラピーなど園主催の行事を行っている。咲愛会という、地域交流の場を定期的に設け、利用者の皆様との認知症に対する理解をして頂ける交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動報告を行い運営に関してや地域の方々やご家族のご意見、要望などを伺い、活動に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、ご意見などを頂いている。また報告書を提出している。グループホーム協議会に参加しており、市との連携を取るよう取り組みを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての委員会を立ち上げ、研修会を行っている。安全空間の配慮や行動に対するの予測、見守りの徹底を行い、身体拘束のないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	つねに虐待防止に対する意識を持つように、委員会を立ち上げ、内部での研修や、外部研修への参加を行い、意識の向上と虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に成年後見制度を活用されている方がいるため、身近に学ぶ機会が持っている。権利擁護に関しては定期的に研修を行い、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分時間をかけて説明を行い家族の疑問等に丁寧に対応している。家族会などでアンケートにて理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回自治会、地域包括支援センター、利用者家族の代表に参加して頂き、運営推進会議にて意見や要望を頂いている。家族面会時には積極的にコミュニケーションを取るようになっている。サービス向上委員会を立ち上げ、ご家族のご意見をつねに耳を傾けるよう、サービスに生かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のケアカンファレンスや人事考課の際、自由に意見交換や、経験、勤続年数にかかわらず、職員、職場の諸問題を討論出来るような雰囲気作りを行っている。チームとしてのケアを大切に、常に職員間のコミュニケーションを取るようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対し年に1回自己目標を提出させ、3ヶ月毎の相談やアドバイスを行う様にしている。一年ごとに達成具合を振り返る機会を設けている。達成具合が顕著な職員に対しては報奨金などで反映している。来年度の職場環境の改善や業務改善に向け取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室により、職員を階層別に分けて計画的に研修を行っている。内部研修も同法人内の施設と共に研修を行いスキルアップを図っている。外部の研修にも積極的に参加し、会議等で研修報告を行うことで全職員に周知を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市のグループホームで構成する別府市グループホーム連絡協議会加入しており、定期的な会合や、協議会が主催する研修会などに職員が参加し他事業所と交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る迄の相談は管理者や担当ケアマネジャーが認知症である本人を理解し、コミュニケーションをとり、置かれている状況を理解して頂く事に努めている。寄り添うケアに努め、信頼できる関係構築を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャーが家族の思いを傾聴し、信頼関係を築きながら、家族の不安や負担の軽減に努めている。コミュニケーションに努め要望が出しやすい環境を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービス機関の紹介や地域包括支援センターへの紹介等を行っている。緊急性がある場合は関係機関と連携・調整し、柔軟な対応を行うように努め生命の安全に留意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自分自身の力を発揮出来るような役割作り(自己実現)をし、喜びに繋げるようにしている。職員と一緒にいる事で他人に対するいたわりや喜びの感情が芽生えるように感謝の意を伝えている。共に暮らす環境を構築するように心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を交えた担当者介護を行う様にしているが、遠方にて出席が出来ない方に対しては郵送にてケアプランの同意を頂いている。また出席できなかった家族には面会時や電話連絡、お便りなどで近況をお知らせするようにして安心して頂く様に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の一環として、家族や知人と共に過ごす行事を企画している。面会に来られた知人などには再来しやすい雰囲気作りと声掛けに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を職員が把握し、座席などの配慮や、お互いの間を取り持ったりするなど、共同生活の中でお互いが支え合い、協力し合えるような関係性を構築できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりやむを得ず退去される方は居宅ケアマネジャーに引き継ぎ、継続的なフォローをしている。他の施設に移られた方には面会に訪問したり交流を続けられるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が本人の思いや希望を傾聴し汲み取るようにし、サービス内容に取り入れている。希望や意向を明確に出来ない方に対しては、表情や行動などから思いを察したり、ご家族から情報を頂き本人に沿ったプランにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーからの情報収集や、入所前の自宅訪問、出来ないときは家族や後見人の方の来園時や電話などで詳細を聞くなどで把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や本人から伺った情報やケアスタッフの情報と合わせ、日常生活を把握し現状の把握に努めている。変化があるときには検討し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者に担当職員を配置し、本人や家族からの要望・意見を聞き、また常に情報共有に努めている。職員間での意見交換をカンファレンス時に行い利用者のその人らしい生活を過ごせるように、ケアプラン作成に活かしている。毎日モニタリングを行い、評価も行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの遂行状況のモニタリングを行い、サービス内容の見直しを定期的に行っている。期間中に状態が変化したり問題が発生した時は臨時のカンファレンスを開き検討している。変更したプランは随時計画書の変更を行い家族に確認して頂いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や買い物その他外出等の支援を行っている。介護度が重度化されている利用者には、食事形態の工夫、本人の趣向に合わせたメニューなど、満足して頂ける様随時柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの交流、実習生の受け入れ等を利用者が地域住民として充実した生活が続けられるように積極的に行っている。また夜回りや合同防災訓練に参加、開催を行い、地域と共に防災、防犯を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人や家族の同意を得て、定期的に職員の同行で協力医に受診している。また、希望に応じて昔からのかかりつけ医に家族の同伴で受診している方や、主治医による往診など出来るだけ希望に添うように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を行い、またディサービス看護師と連携を取り、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行、情報提供し、混乱のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。1ヶ月を越える入院となると施設を退去することとなるため、職員による病院訪問や快復状況の確認を行いながら、主治医とも退院計画の相談を行うなど連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期対応指針を作成し、職員全員で施設の方針を共有できるよう意識統一を行っている。またその旨を家族や本人につたえ希望等へ確認を行い、状況の変化に合わせて話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを職員全員で回覧し、内部研修にて主な急変時の対応を研修している。また同施設でAEDを設置しており、消防署の協力により合同防災訓練にて心肺停止時の対応、蘇生法について学んだ。AED使用の実施法及びその際の留意点の講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月利用者と共に避難訓練を行い、また、年に一度地域との合同訓練を行う事で、地域の方々の協力をお願いし、災害時の協力体制を気づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシー保護に対する内部研修を行い、つねに敬う気持ちで接する様に努めている。職員のマナー委員会を設け、言葉遣いや態度の指導・教育、啓発を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表しやすい環境を常に整え、寄り添う介護を基本として気配りしている。考えを表す事の困難な利用者へも、表情や立ち振る舞いから意志をくみ取る事の出来るよう、本人の意向を確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々基本的な業務の流れはあるが、ゆったりとした環境作りに努め、利用者のその日の体調やニーズに合わせた柔軟な生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る利用者には好みの服などを選んで頂ける様に援助を行っている。自己決定の出来ない方には本人の好みを考慮しつつ、その方らしい服装を選ぶようにしている。整容についても準備や声掛けを行い、その方の希望に応じた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日職員による手作りの料理を提供し、準備より調理中の香りがする暖かい環境の中で食事を提供している。食事は本人の嗜好や、体調に合わせた食事を用意し、楽しみながら食事出来るよう支援している。食事全体が和やかに楽しくなるよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを行い、記録し、大まかな摂取量を把握している。家族からの聞き取りや嗜好調査を行い、食べられない物は別メニューで出したり、利用者の嚥下や咀嚼力に応じて、粥やミキサー、きざみにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が認識し、毎食後歯磨きや義歯の洗浄の声かけ、援助を行い、一人ひとりの力に応じてケアを行っている。希望や状態により訪問歯科に依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の体調や状況に合わせて、トイレ誘導、介助を行い、オムツや尿取りパットを使用している。個々の尿意の有無や意思を尊重し排泄パターンを職員間で把握し誘導や声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品を主体としたメニュー、また乳酸菌やオリゴ糖、青汁など排便を促しやすい飲料を提供している。レクリエーションなどで運動する機会をもうけて便秘予防に取り組んでいる。主治医とも相談し、自然排便に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のペースや体調に合わせて入浴を楽しんでいただいている。安全面や清潔保持に配慮しながら、洗体出来ない部分については一緒に行っている。浴槽に入る事が困難な方にはリフト浴を使用し、入浴を楽しんで頂くよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調やその日の行動、要望に対応し、居室で休息し、ゆっくりして頂くようにしている。出来るだけ個々の生活リズムに合わせて就寝していただき、テレビを見たり、部屋で過ごしていただきゆっくりとした時間を過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人ファイルに既往歴や受薬内容をファイルし、全職員が把握するように努めている。臨時薬や定期処方が変わったときは伝達ノートに記載し申し送りを行い、様子観察、状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味趣向を職員が把握し、外出や、馴染みの歌などを楽しんで頂いたり、家事は昔得意だった分野など、個々の能力に合わせお願いして、感謝の言葉を伝えるなどし、達成感を感じて頂ける様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ、散髪等の機会を作り、戸外に出て気分転換やストレスの解消に努めている。本人の希望を聞き外食などの支援にも対応している。家族にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行した際に、小遣いの中から嗜好品を購入するなど、自分で精算する場面をもうけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話ができる方はおられないが、家族、友人からの手紙には、職員が援助し、声かけを行い、お返事を書くなどして、関係が途絶えないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面の飾りなど、季節感を取り入れた居心地の良い空間作りを心がけている。リビングでは他の利用者や職員と共に過ごし、調理をする職員の姿や香り、音など過ごしていた環境に近い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは職員が調理をし、つねに寄り添い、その中で趣味の歌や読書など行える暖かい環境作りをしている。仲の良い利用者同士で過ごせるような席の配慮を行っている。椅子や机を配置して、居心地の良い空間作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がゆっくりと居室で過ごせるよう、自宅に近い環境をご家族と相談して、使い慣れた家具等を自由に配置して頂いている。また家族の写真や思い出の品などを飾り、個々の個性に合わせた部屋作りを家族と一緒に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心して暮らせるような環境を常に職員間で討議し、困難や失敗が生じたとき、解決策を出し合って対応している。変化に応じて都度話し合いを行い、本人の力が発揮出来るよう追求している。		